

2 全庁的な内部統制に関する事項

(1) 全庁的な内部統制の取組状況

① 統制環境

以下の通り各項目について取組を行っており、長の姿勢の表明や、内部統制の目的を達成するための組織構造や体制、人事管理や研修等について適切に実施されている。

評価の基本的な考え方	評価項目	取組内容
1 長は、誠実性と倫理観に対する姿勢を表明しているか。	1-1 長は、地方公共団体が事務を適正に管理及び執行するうえで、誠実性と倫理観が重要であることを、自らの指示、行動及び態度で示しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮崎市内部統制に関する方針」の策定・更新、周知。 ・「宮崎市職員クレド」「宮崎市職員5つの誓い」の策定、周知。 ・市長によるコンプライアンス等の重要性についての講話等の実施。
	1-2 長は、自らが組織に求める誠実性と倫理観を職員の行動及び意思決定の指針となる具体的な行動基準等として定め、職員及び外部委託先、並びに、住民等の理解を促進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮崎市内部統制に関する方針」「宮崎市職員クレド」「宮崎市職員5つの誓い」「宮崎市職員服務規程」「宮崎市職員倫理規程」の市職員への周知、市民への公表。
	1-3 長は、行動基準等の遵守状況に係る評価プロセスを定め、職員等が逸脱した場合には、適時にそれを把握し、適切に是正措置を講じているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の懲戒処分等の基準の策定。 ・事故報告手順に基づく報告。 ・事案発生時等における依命通知等の発出。
2 長は、内部統制の目的を達成するにあたり、組織構造、報告経路及び適切な権限と責任を確立しているか。	2-1 長は、内部統制の目的を達成するために適切な組織構造について検討を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・企画財政部行政経営課に「行革内部統制係」を設置。 ・「宮崎市内部統制に関する方針」に基づく内部統制推進のため、「内部統制実施要綱」を定め、体制を整備。 ・「宮崎市内部統制制度の手引き」を作成し、内部統制の体制を改めて検討・整備。 ・令和4年度の組織改編において、庁内におけるコンプライアンス体制の強化並びに、内部統制に係る組織構造の強化を図るため、市役所改革推進課を新設。
	2-2 長は、内部統制の目的を達成するため、職員、部署及び各種の会議体等について、それぞれの役割、責任及び権限を明確に設定し、適時に見直しを図っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮崎市内部統制に関する方針」のとおり、内部統制の体制や運用について、評価報告書や監査委員の審査意見書を踏まえ、適切な見直しを実施。 ・組織的課題の解決に向けて、毎年度組織構造について検討を実施。
3 長は、内部統制の目的を達成するにあたり、適切な人事管理及び教育研修を行っているか。	3-1 長は、内部統制の目的を達成するために、必要な能力を有する人材を確保及び配置し、適切な指導や研修等により能力を引き出すことを支援しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修(書面のみを含む)において、内部統制に関する説明を実施。 ・内部統制の浸透・定着を目指し、「職場研修」に講師として制度担当者を派遣。研修実施後に報告書を提出させ、職員への制度浸透状況を確認。
	3-2 長は、職員等の内部統制に対する責任の履行について、人事評価等により動機付けを図るとともに、逸脱行為に対する適時かつ適切な対応を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職において、人事評価の結果を給与に反映。 ・部長級、課長級の人事評価表の能力評価の「倫理」の項目に内部統制の内容を追加。 ・逸脱行為があった場合には、基準に従い、適切に処分。

宮崎市職員クレド

～宮崎を愛し、次の世代によりよいまちをつなぎます～

クレドの基本理念

クレド

クレドの趣旨

関連する理念

笑顔であいさつします

あいさつは良好な人間関係の第一歩。誰にでも自分から笑顔であいさつし、わかりやすい説明と清潔な身だしなみで市民に接します。

- コミュニケーション
- 接遇向上
- 元気づくり

市民と一緒に考えます

市民の立場に立ち、市民と一緒に悩み、一緒に課題を乗り越え、市民の望んでいることに真摯に応えます。

- 市民目線
- 市民協働
- 市民の役に立つ人

法令を遵守します

法令を守り、高い倫理観をもつことは公務員の使命。「行政のプロ」として、常に仕事の根拠法令を調べ、技術・技能を修得します。

- コンプライアンス
- 自己研鑽
- 市民の信頼

お金と時間を無駄にしません

経営感覚で仕事の効率化と活性化を進めます。限られた予算と時間を常に有効に使い、市民サービスを向上させます。

- 株式会社宮崎市役所
- コスト意識
- 都市経営

職員みんなで協力します

職場はチーム。目的と課題を共有して、チーム全体で協力します。困難な課題にも、部局を超えて、「チーム市役所」で挑戦します。

- 職員のきずな
- 組織力
- 部局間の連携

宮崎市職員5つの誓い

わたしたちは、市民の信頼に応えるために、
法令や社会規範等を遵守し、公正・公平で誠実な姿勢で職務に取り
組むとともに、市民の大切な財産を無駄にしません。

- 1 市民の立場に立った行政運営を行います。
- 2 市民に信頼されるよう誠実・公正に行動します。
- 3 法令遵守と規律保持を徹底します。
- 4 市民の安心・安全を守ります。
- 5 地域社会の一員として積極的に活動します。

宮崎市支所の待合所に張り出しの「宮崎市職員5つの誓い」

がん教育実施状況

【体育科・保健体育科以外での実施（道徳・総合的な学習の時間・特別活動など）】

埴生小学校（R4.1.21）

学校保健委員会で山陽小野田市健康増進課の保健師を招き三大疾病の予防について講演会を実施した。

小野田小学校（R4.10.21）

がんについて正しく学ぶために、乳がん患者の井上裕香子さんを招き、6年生に対してお話をいただいた。また、自分たちにできることとして、がん検診率の向上を目指す啓発ポスターを作成し、市の健康増進課と連携した。

赤崎小学校（R4.3.9、R4.3.10）

がんについて知り、今自分にできることを考える授業 対象：第6学年 教材：山口県がん教育副読本、三重県教育委員会資料

小野田中学校（R3.11.18）

乳がん体験者の井上裕香子氏を講師に招き、がん患者の気持ちや早期発見の大切さ等のお話をいただいた。

埴生中学校（R4.1.21）

学校保健安全委員会で小6と中1を対象に三大疾病について講話いただいた。（講師：保健師 中村 早枝華）

大人も止むくか心を抱いているのでしょうか

がんと診断されて40%近くの人が仕事を辞めたり、解雇され、さらにそのうちの半数近くの人が、がんと診断された時にすぐに仕事を辞めてしまうという報告があります。これも、がんに対する正しい理解がないからではないでしょうか。がんが長く付き合う病気へと変わった今は、がんの治療にかかる費用や、治療が終わった後の生活のことも考えなければなりません。また、仕事を続けるためには、職場の人たちの理解も必要です。自分ががんになった時に、職場の人ががんになった時に、理解して助け合うことが必要ですが、残念なことに現状ではがん患者に対する理解も社会の仕組みも全く足りていません。これは、がんという病気についての正しい知識を得たり、考えたり、話し合ったりする機会が今までになかったからではないでしょうか。

なかに「がん教育」の重要性

だからこそ、小さいころから「がん教育」を通し、がんに対して正しい理解ができれば、子どものころから生活習慣に気をつけたり、大人になった時に検診を受けるなど、自分の体を大切にしようと思うでしょう。また、身近な人や大切な人ががんになった時の事を考える機会にもなります。家族、友だち、知人、あるいは自分が…、「がん」と関わりのない人はほとんどいないのではないのでしょうか。そうした身近な人ががんになった時に、心身ともに強いダメージを受けるのは子どもたちではないのでしょうか。生活習慣をよくしたら、検診で早期発見して早期治療できることだけが、人生の正解ではありません。がんになったから、その人の人生が間違いであったわけでも、失敗であったわけでもありません。がんになっても希望を持って自分らしく生きるという気持ち、それを周りの人が理解して寄り添うことの大切さ、その時に自分が何をすれば良いのか、何ができるのかを、「がん教育」という仮想の体験から学んでほしいのです。それは、優しさや思いやり、そして命の大切さを学ぶことにもつながります。



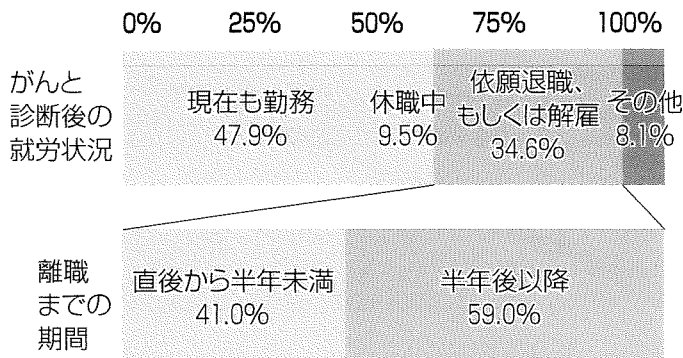
子どもから大人まで

子どもたちが自信を持って生きていけるように、どんなに変化して予測困難なことが未来に起こった時にも、1人ひとりが考え、判断し、行動することで、幸せな未来を共につくっていけるように、いま学んでいるのだと思います。そんな未来であることを切に願います。

がんと診断後の就労状況の変化

(出典:2013年がんと向き合った4,054人の声)

「がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査 報告書」



市内中学校で「がん教育」の話をする
市内病院緩和ケア内科 高木健司医師

「がん教育」の重要性

「がん教育」で一番問題にされている点は、子どもたちへの配慮です。子ども自身ががん経験者であったり、ご両親や祖父母などががんの治療中であったり、最近身近な方をがんで亡くしたりしている子どもや保護者がそこにいる可能性は高いです(と言うより、いて当たり前です)。学校の先生方も前もって情報を確認したり、私たち講師も話す時に十分な配慮は行っています(いるつもりです)。しかし、何度も書きますが、がんがいつどこで出会ってもおかしくない当たり前の病気であるならば、がんを無闇に怖がったり、がんに対する誤解や偏見をなくすためにも、子どもたちへの「がん教育」は大切だと思います。

子どもから大人まで

子どもたちは素直であり、私たちが思っているより大人です。人の話には耳を傾けます。授業後の感想でもがんに対する不安な気持ちが変わったと言ってくれます。そして、きっとそこから、さらに自分で考え、判断し、行動し、その先の人生につなげていく力があると思います。「がん教育」を受けて帰宅された時には、何を学び、何を思ったかをご家庭でも話し合ってください。それを聞くことが、ご家族の方の意識の変化にもつながることになると思います。



4
 を活用した
 家の整備！
 ール

3

ガラスの街とガラス博物館
ストリートミュージアム

から深度
 富山の大自然
 に深く取り
 込まれた文化で
 工業技術

「ガラスの街とガラス博物館」は、富山の歴史と文化を伝えるための施設です。ガラスの街とガラス博物館は、富山の歴史と文化を伝えるための施設です。

「ストリートミュージアム」は、富山のまちなかの公園や建物内、歩道上にガラス作品を展示して、街全体がガラスのミュージアムになる。「ガラスの街とガラス博物館」ならではの施設です。この取り組みにより、富山の街並みの小売化の中にも、さまざまな場所でのガラスの魅力を伝えたいと考えています。